

新年(令和6年)を迎えて

昨年、12月22日に終業式を迎えた第2学期においては、保護者及び地域の皆様に支えられ、より充実した教育活動を営むことができましたことに大変感謝申し上げます。

2学期終業式には、児童生徒に、「私たち教員は、児童生徒が安心して対話し、自分から動いたり、考えたり、判断したりできるように授業づくりに取り組んできたけどどうでしたか?」とたずね、教職員一同、引き続き、対話を大切にして取り組んでいくことを話しました。児童生徒たちからの答えは、1月にとる学校評価アンケートに書いていただきたいと考えております。

また、私が感じている児童生徒が発する「伝えたい意欲」についても話しました。特に言葉での気持ちの発信が難しい児童生徒は、思いを伝えたいという「意欲」が、視線や表情その他どこかであらわれ、私は教室に入る時にそれを感じます。何かの手段で伝えたいものがダイレクトに伝わるといいのにといつも思います。

12月12日に行われた第1回茨城県内肢体不自由特別支援学校3校合同対戦ぬり絵eスポーツ大会(オンライン開催)に参加するにあたって「僕は自分で操作できる視線入力で対戦できる大会に参加するのが楽しみで、これをたくさんの人に広めたい。みんなが楽しめるようになってもらいたい。」と思いや考えをご家族に協力をもらい手紙で伝えてくる生徒がいました。

自分から発信する生徒もいました。茨城県高等学校文化連盟の特別支援学校部門大会(土浦市民ギャラリーで作品展開催)の実行委員の活動をしている時、他の高校からボランティアで参加した高校生に「僕みたいな障害のある人がどのように生活しているか、どのようなことを考えているか知ってもらい、障害のある人も、ない人もみんなが幸せに過ごせるようにしたい」と積極的に話していました。

12月21日に本校で学校運営協議会(コミュニティスクール)の第3回の会議があり、中学部と高等部の代表の生徒(14名)に参加してもらい、well-beingな(みんなが幸せに暮らせる)世の中にするために自分に何ができるかについて、地域の委員《茨城大学・LIXIL・いばらきスポーツタウンマネジメント(茨城ロボッツ)・セブンイレブン水戸養護学校前店・就労継続支援B型事業所Lotus》の方々やPTA会長及び役員の方々や教員と6つのグループに分かれて対話しました。大人も子どもも対等に自分の考えを出し合って、たくさんの気づきがあり、学びあいました。「人によって価値観が違う、価値観を認め合い、掛け合わせることで、また違った素晴らしいものができるのではないか。」「みんなを笑顔にできる俳優になりたい。」「発信の仕方を考えていく。」「好きなことが言える、この状態がwell-being。」「校外学習に出て気づいたことを発信していく。」「アニメの戦争シーンから戦争がなぜ起きるか考える。」「対話をしてみないとわからないことがたくさんある。」「いろいろな変化に柔軟に対応したい。」「難しいことは考えずまずやってみる。そうすると人は寄ってくる。人に助けられたら感謝する。」などの意見が各グループから出ました。今回参加した大人は子どもが考えてい

ることを知り、新たな学びがあり、あらためて対話の大切さへの気づきがありました。子どもたちが感じたり考えたりしていることを聴いて私たち大人に何ができるか、自律に向けて・・・。

2 学期までに様々な教育活動を通して、児童生徒からもたくさんの学びを得ました。まさに可能性は無限大です。令和 6 年を迎えたこれから、その児童生徒が社会でよりよく過ごせるために、自律し、学校をつくり、well-being な世の中をつくる一員にさらになれるように、児童生徒、保護者、地域の方々とともに努力していきます。

今後、学校評価によって次年度に向けての方向性を示していきます。これまでの取り組みについて、児童生徒及び保護者の皆様から、この後とるアンケート調査にてご意見をいただけるとありがたいです。よろしくお願いいたします。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

3 学期始業式では、大谷翔平選手から贈られたグローブをメッセージとともに児童生徒に紹介し、大谷選手の気持ちに伝えられるよう、今年もチャレンジしていこうと話しました。

校長 林 孝一